

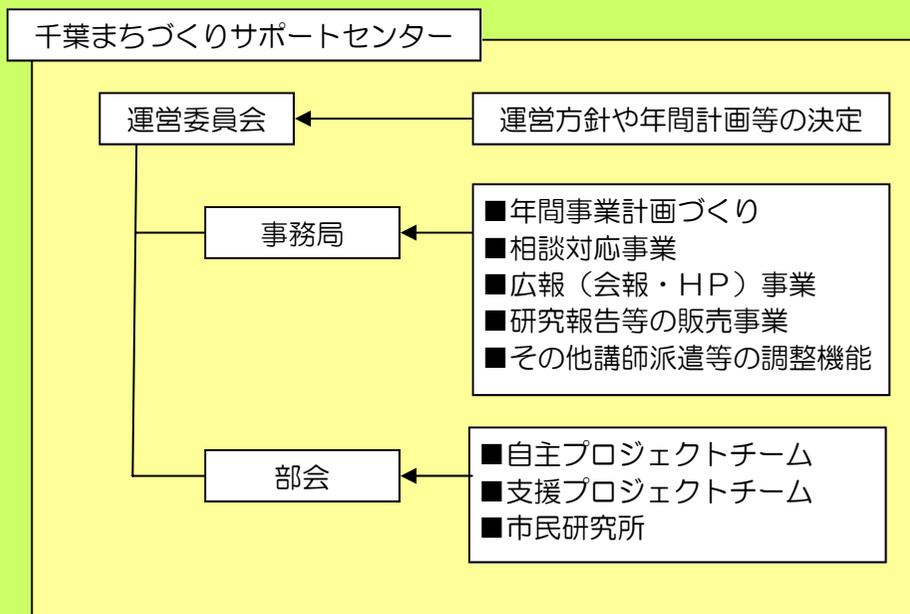


【団体概要】

市民参加のまちづくりを推進する目的で相談、調査、研究、実証実験、コーディネート、政策提言等を行う中間支援型コミュニティシンクタンク。

会員数： 88人 設立：平成 11年 2月

実施体制と活動



【主な活動実績】

- まちづくり・市民活動等の拠点づくりコーディネート
- 県立博物館政策提言と評価尺度試作
- 地域通貨導入・団地再生の実証実験
- コミュニティビジネス起業化講座の開催
- 生物多様性に配慮したまちづくりの研究

モデル事業

千葉の貝塚群を再評価し、生物多様性に配慮したまちづくりを推進するためのシンポジウムの開催するためのシンポジウムの開催

- 事業期間 平成20年9月1日～平成21年1月25日
- 事業の目的 生物多様性に配慮したまちづくりの推進

活動の内容

千葉県の貝塚分布(写真左)：千葉県の貝塚の数は全国一。
シンポジウム風景(写真中)：3つの分科会に分かれて意見交換。
現地ワーキング(写真右)：有志で加曽利貝塚周辺を歩き、大いに語る。



縄文時代、豊かな生物資源に恵まれた千葉県には多くの先祖がスローライフを実践し、自然と共に暮らしていた。一万年を越える平和な時代の証である貝塚の集積は、世界に誇れる千葉県の貴重な資源である。この活動は、「千葉の貝塚群を世界遺産に！」をスローガンに私たちのライフスタイルとまちづくりを見直すきっかけをつくるためにはじまった。シンポジウムを開催し、現地を歩き、それら記録と寄稿文をまとめてブックレットを作成した。

今後の方向性

世界遺産への登録は、簡単ではない。まず、なによりも地域住民が貝塚群の価値や縄文の時代を愛し、その地域に住んでいることに誇りを持つ必要がある。しかし、そうした人たちはまだまだ少数である。シンポジウムでは、これまでに交流のなかった人たちが集まり、さまざまな縄文への「思い」が語られた。これをきっかけにして、世界遺産を目指す活動のつながりが強化し、広げていくことが重要である。

問い合わせ先：〒267-0065 千葉市緑区大椎町1188-129 代表 福川裕一
TEL:090-9970-1749 e-mail:born@jca.apc.org